

MY FIELDとは...

原村の地域おこし協力隊が発行するかわらばんのことです。原村で暮らす、おもしろくて素敵なひとを紹介します。



「八ヶ岳自然文化園
カフェK店長」

伊藤 拓也さん(38)

原村柳沢地区出身。高校卒業後、進学のため上京。15年間アパレル業界におり、うち10年以上店長を務める等ご活躍された。外へ出て地元の良さを再認識し原村で働きたいと考えていたとき、文化園併設飲食店経営の話があり、地元へ戻ることを決意。現在はカフェKの店長を務め、カフェのイメージキャラクターとして多くの人に愛されている。



広く大きく受け入れること

そこから新しい何かが生まれる



原村で育った子供時代は、移動手段がなく行きたいところに行けないことに不自由さを感じていたと話す伊藤さん。便利さを求めて都会に憧れ、高校卒業後上京したという。実際に都会に出てみて、「便利だともも考えなくなってしまうことが分かりました。考えないとできないことが多い暮らしの中には豊かさがあると感じ、外へ出てみて地元の良さが初めて分かりました。」と語った。

大手セレクトショップの店長を長年務めていたが、華やかなアパレル業界での仕事は苦勞も多く、両親の傍で生活をしたいとの想いもあり、地元へ戻ることを考え始めていた。そんな時、「八ヶ岳自然文化園併設飲食店の店長をやってみないか」という話があり、原村へ戻ることを決めた。「仕事はどんなことでもよかったです。地元で働けるということが自分にとって大きかったと思います。」と当時を振り返る。子供の頃はペンション地区の方

に行く機会がほとんどなかったという。何気なく始めた文化園での飲食店だが、自分が居ることによって訪れる村の人がいることに大きな意味を感じ始めたそう。Kを訪れることをきっかけに、文化園の周辺を散策し、同じ村の中にある素敵な場所をもっと知り誇りに思っていてほしいと思うようになったという。「その橋渡しをできることが嬉しいです。育った村があるから今の自分があるの、恩返しをしていきたいです。」と笑顔で話し、使命感を持ち嬉々と仕事に取り組んでいる姿を見せてくれた。

「コンセプトに縛られず、出会う人や直面する出来事の中でKも自分も成長していきたくです。」と語る伊藤さん。自分で自身を制限せず、広く大きく受け入れることで新しい形が生まれる。出会い関わる人々を大きく許容し、相手を尊重する姿が印象的な伊藤さんの周りには、多くの人々が集まり新しい何かが生まれる予感で溢れていた。